平成 31 年度事業計画

平成 31 年（2019 年）4 月 1 日～平成 32 年（2020 年）3 月 31 日

当法人は、昭和 39 年 1 月の創設以来、日本の文学・哲学・教育・美術等の各分野に多大な影響を与え、東洋の精神文化の基幹をなしてきた禅及び禅文化を、総合的に研究し、その成果を普及して、広く世界の人類文化に貢献する事業を展開してきた。

平成 28 年度もその理念に基づき以下の事業を遂行する。

Ⅰ．禅文化普及事業（公益目的事業）

〈1〉調査・研究活動

１．中国禅宗史・禅語録研究班

当法人は、設立以来語録研究班を組織し、禅文献のうち最重要とされる中国唐宋代の禅語録を継続して会読している。これらは禅の語録を、唐代・宋代の中国語の口語研究を踏まえ、語彙や文体の変遷と思想史の脈絡にしたがって読解してゆくものである。その成果は、唐宋の思想史解明に新たな観点を提供するものとなり、また、唐宋の口語研究に寄与するものとなる。

参加メンバーは仏教学、哲学、文学、中国語学などの研究者や学生、一般からの参加者などで構成され、学際的な雰囲気の中で研究が行なわれている。

①唐代語録（『祖堂集』）研究会〔班長　西口芳男〕

『祖堂集』は『景徳伝灯録』の編集に先立つこと 52 年、完存する禅宗灯史の書としては現存最古のものであり、現代の禅に直結する唐五代の禅の資料の古層をなすものとして貴重である。北宋初期の当時の最高の知識人の刊削裁定を経た『伝灯録』に比べて、野趣に富んだ生の資料を提供してくれるものであり、口語研究の資料としても、近年、とみに注目を集めている。既に 45 年前、この研究班では、入矢義高・柳田聖山の指導のもとに読まれ、当時の原稿によって『訓注祖堂集』（国際禅学研究所報告第 8 冊、2003 年）として当時の成果が発表されている。今回は『祖堂集』を成立させた福州の雪峰教団の禅師をメインにして深く読み進め、『祖堂集』成立の背景を探ることを目的とする。

今年度は巻 11 斉雲和尚章第 5 則（全 25 則）より始め、永福和尚章全 6 則及び福清尚章（全 4 則）へと読み進める。第二第四の金曜日開催。

②「神会語録」研究会〔班長　西口芳男〕

敦煌写本禅宗文献の中で最も重要なものの一つに神会関係のものがある。神会の語録の校訂本には、つとに、胡適氏、鈴木大拙氏のものがあるが、敦煌博物館本やいくつかの断片写本が出揃うと、従来の校定には限界のあることがわかり、新たな定本、正確な訳文、詳細な注釈の作成が待たれていた。本会ではこの点を重視した読解を進めてゆく。

今年度は休会とする。

③「景徳伝灯録」研究会〔班長　西口芳男〕

禅語録中、最も基本的かつ重要な文献である『伝灯録』全 30 巻を、近年の日中両国の中国口語史研究の成果を踏まえて、千八百の古則公案といわれる問答の一つ一つの意味を解明することに重点を置き読解を進めている。

今年度は巻 17・高安白水本仁禅師章（全 7 則）、撫州疎山光仁禅師章（全 12 則）、澧州欽山文邃禅師章（全 13 則）、台州瑞巌師彦禅師（全 9 則）を読み進め、且つ原稿化を進める。隔月 1 回開催。

④俗語言研究会〔担当：衣川賢次・西口芳男）＊新規

平成５年～１０年にかけて、日中の中国語学研究者に呼びかけて刊行した雑誌『俗語言研究』を中国四川大学が主（経費負担を含む）となって復刊する。禅宗研究の推進を目標とし、禅宗の言語、禅宗の歴史と思想、禅宗文献の研究を主題とする論文、書評等を掲載する。日本側は監修として参画。今年度中に『俗語言研究』第６号（復刊第１号）を刊行する。

２．禅宗経典研究班

禅文献に関わる経典類について独自の研究を進めると共に、臨済宗で常用される経典についても、現代に即した内容や形態は何かを究明し、一般に普及する方策を考える。

①臨済宗経典研究会〔班長　西村惠学〕

現代の臨済宗で常用されている経典について、その声明や経本を中心に整理し、現代人に受け入れやすいものを考え、一般に普及するような方策を考慮して制作する。

３．哲学研究班〔幹事　森　哲郎〕

平成 31 年度も、哲学分野と仏教伝統との遭遇の意義を深めるため、仏典研究会としての「大蔵会」と、「西田哲学会」と「西谷研究会」の三つの研究会を、各々、年 4 回（3 か月に１度）開催する予定である。

研究会全体の指導を仰ぐ上田先生が宇治に転居されたこともあり、研究会の全員ではないが、各研究会の幹事を中心に、定期的に先生を訪ねてご指導を受けている。昨年 11 月 7 日には、文化功労賞の授受に文科省より数人来られたので、秋富克哉教授（哲学班メンバー）と森が、宇治にて立ち合いをした。

昨年度は、幹事の森が病気のため入院などがあり、哲学班メンバーの大橋良介教授（日独文化研究所）が「大蔵会」を、秋富克哉教授（京都工芸繊維大学）が「西田哲学会」と「西谷研究会」の幹事を代行した。「大蔵会」では、大井和也氏の指導のもとに『成唯識論』の読解を継続し、「西田研究会」では『働くものから見るものへ』の読解を継続、「西谷研究会」では『夢中問答』と『大谷講義』の読解に取り組んでいる。

どの研究会にも新たな若い研究者が参加し、活発な勉強会になっている。

４．日本禅宗史・禅語録研究班

日本の伝統教団を形成した祖師たちの伝記や語録を体系的に整備し、現代的に解釈することを目的とする。班員は所員を中心としたメンバーで構成する。

①江湖開山等語録研究〔班長　能仁晃道〕

臨済宗各派寺院の協力により、開山・中興開山等が残した語録類を整理し、訓注を行なう。本山以外の寺院に残る語録類の訓注は、殆どなされておらず、日本禅宗史上重要なものが多い。『古月四会録』を 5 月、徹翁義亨『徳禅寺法度』と月船禅慧『武渓集』を 4 月に刊行する。現在、『平林寺開山語録』の訓注を継続中で、平成 32 年 10 月に刊行する。また、仙台伊達家の歴史書である『伊達出自世次考』『伊達正統世次考』の訓注にも取りかかる。

②天龍寺史研究班〔担当：藤田琢司〕

大本山天龍寺の委託を受け平成 28 年度より発足。『天龍寺史』の完成に向けて天龍寺関係史料の収集・翻刻・編纂作業を行う。昨年度に引き続き数名のアルバイトを雇い、主として『天龍寺年中記録』の翻刻作業を行う。その他の記録類からの天龍寺関係記事の収集作業も行う。未刊行寺外所蔵史料の調査も必要に応じて行なう予定。

以上と並行して、寺内有志の参加のもと、開山夢窓疎石の『夢窓国師語録』上下 2 巻の輪読会を開催。原稿を整理した上で数年以内の刊行を目指す。

③『延宝伝灯録』研究〔担当　阿部理恵〕

日本の禅僧・居士ら約千人の伝記『延宝伝灯録』（卍元師蛮撰述）の訓注作業を行なう。本書は江戸時代までの日本禅僧の伝記の集大成として位置づけることができるが、歴史学の成果に加えて難解な禅語の知識が不可欠であったため、従来訓読等が刊行されたことはなかった。現在、休止中。

５．マルチメディア研究班　〔班長　西村惠学〕

印刷物をはじめ、音声、映像、ホームページなど、多様なメディアを通して現代人に禅をわかりやすく伝える方策を研究する。

昨年度に続き、すでに絶版になってしまっている刊行物や、今後刊行する専門書を電子書籍化する方策も調えていく。

また、スマートフォンアプリ「京都禅寺巡り」のコンテンツ充実（特別拝観情報取得の効率化も含め）や広報活動を行なうとともに、今後、東京オリンピックにむけてインバウンドの増加が考えられるため、各種助成金の申請を鑑みつつ多言語版制作の検討を行なう。

今年度、臨済禅らしい禅語を使った LINE スタンプを制作する

〈2〉資料収集・資料公開活動

１．デジタルアーカイブス

禅の文化として大切に遺されてきた書画を中心としたアーカイブを、劣化しないデジタルデータとして保存していくことを目的とする事業。7 年を目途として活動してきたが、調査要求もあり、今後も各地で調査を継続していく予定中。

将来的には、以下のような事業を通して蓄積した画像と資料に基づいて、「禅文化財ＷＥＢ博物館」（仮称）を制作し、国内外にバーチャル博物館として、禅の文化財を紹介していく事業として展開したい。

①デジタルアーカイブス「禅の至宝」（文化財目録整備事業）

各派本山や、文化財を多数所蔵する由緒寺院の宝物を、保存性や再現性に優れた電子デ

ータで記録し利用するための「デジタルアーカイブ　禅の至宝」を、23 年度から運用開始。協力の得られた寺院に撮影に出向くなどして、絵画・墨蹟類を中心にデジタル写真に撮影しデータベースに保存する。また同時に、専門分野の学芸員に依頼してそれらデータの目録情報を入力していく。現在、禅文化研究所所蔵品岐阜県大仙寺、山梨県恵林寺、埼玉県平林寺のデータ、臨済禅師・白隠禅師の遠諱に合わせて開催した禅展のデータは登録済み。東京麟祥院のデータもまもなく登録完了。京都府円福寺、浜松方広寺、「蘇山玄喬展」、「釈宗演展」、「誠拙周樗展」のデータも登録する。加えて臨済禅師 1150 年白隠禅師 250 年遠諱事業による特別展において集められた情報を基礎データとして追加登録する。

また、テレビや雑誌等へのアーカイブスデータの有償貸し出しも行なっている。

②寺宝調査活動

①に登録するための調査活動を花園大学歴史博物館と協力して継続的に行なっていく。今年度は、継続で建仁寺塔頭両足院、滋賀県瓦屋寺（妙心寺派）、熊本県見性寺（妙心寺派・現在花園大学歴史博物館に一時寄託中）、大本山南禅寺、大分県中津市の自性寺の調査を行なっていく。南禅寺の調査は、毎月第４金曜日に定期的に行なっていく。また岐阜県山県市の東光寺の調査も計画調整中であり、受託いただければ調査を開始する。

２．資料の収集・整理・公開

①資料室所蔵品の整理・公開（利用）

当法人がこれまで収集してきた 37,000 点にのぼる文献資料のうち、未整理分について、資料管理ソフトを用いての入力と分類整理を行なう。今後、オンライン蔵書検索への対応も検討する。蔵書には、他の図書館や資料館にはない貴重なものが含まれているが、これらの閲覧は、従来通り内外の研究者や禅に関心のある一般人に無料で開放する。

②ＷＥＢ版所蔵墨蹟展

当法人が所蔵する書画を、ホームページ上でバーチャル墨蹟展として随時公開する。

③禅文化研究所企画墨蹟展

禅宗寺院及び当法人が所蔵する書画を一般公開し、美術に関する講演を行なう墨蹟展を花園大学歴史博物館と共同で開催する。今年度春季展は円覚寺と共催で４月２日～6 月 15 日に、大用国師 200 年遠諱記念「誠拙周樗－鎌倉禅中興の祖－」展として開催する。秋季には方広寺展を開催予定。会期中には記念講演会も行なう。

④所蔵墨蹟類の保存・修復【周年関連事業】

研究所所蔵墨蹟のうち、今後の展覧に耐えられるよう、とくに傷みがひどい優品を優先し、数年かけて修復する。今年度の修復はなし。

⑤黒豆データベース公開事業

当法人がこれまで電子テキスト化してきた禅宗文献のうち、訓注本として発刊してきたものの原文データベースを、簡易検索システムと共にホームページ上で一般に無償公開中で、随時、データファイルを追加する。また原文データベース以外に、基本的な文献の訓読データをもテキストデータベースとして登録していくように推進する。

⑥問い合わせに関する回答

資料の出典や解読等について、寺院・団体・個人を問わず様々な問い合わせが数多く寄せられる。それらの回答に無償で応じる。

３．Wikipediaのデータ修正・登録事業

インターネット上の電子辞書サイト(Wikipedia)の、禅や禅文化に関係する部分を見直し、データの修正や新規登録などを随時行なう。

〈3〉広報・普及活動

１．季刊『禅文化』の刊行

季刊『禅文化』は、禅の思想と生活及び文化・美術などに興味を持つ読者のための教養誌として刊行を続けている。今年度は、252 号～255 号を発行する。252 号は「誠拙周樗遠諱」、253 号は「古月禅材」の特集を予定している。

２．研究成果の刊行

〇中国禅宗史・語録研究班の成果

① 『禅宗語録入門読本』小川隆 （平成 31 年秋刊行予定）
② 『中国禅思想史』 伊吹敦 （平成 31 年度刊行予定）
③ 『初期禅宗思想史』 松岡由香子（自費出版） （平成 31 年度刊行予定）

〇日本禅宗史・禅語録研究班の成果

① 『訓注 武渓集』 横田南嶺＋藤田琢司 （平成 31 年 4 月刊行）
② 『徳禅寺法度』・『徹翁義亨禅師抄』 （平成 31 年 5 月刊行）
③ 『古月四会録』 能仁晃道 （平成 31 年 6 月刊行）
④ 『平林寺開山語録』 （平成 32 年 10 月刊行）

〇マルチメディア研究班の成果

① 2020 年禅語こよみ 円福寺所蔵品 （平成 31 年 9 月刊行）
② DVD 禅僧が語る 道前慈明老師 （平成 31 年 4 月刊行）
③ 『写禅語』 禅文化研究所編 （平成 31 年度刊行予定）
④ 『坐禅和讃』（山田無文）英訳本 トーマス・カーシュナー （発刊未定）

〇臨済宗経典研究班の成果

① 『臨済宗檀信徒葬儀法』重版

〇その他

① 禅文化研究所紀要 34 号 *電子版と紙媒体 （平成 31 年 2 月刊行）

〇オンデマンド出版

絶版刊行物をオンデマンドまたは電子書籍として復刊する。

① 『禅文化』バックナンバー 創刊号～100 号まで電子化し合本して順次出版
② 『小叢林略清規』

３．公開講義等

①「禅思想の諸問題」〔講師 西村惠信（花園大学名誉教授）〕

『維摩詰所説経』（鳩摩羅什訳）をテキストに禅の基本思想を平易に講義。一般社会人を対象に毎週火曜日 3 時から 5 時まで開催。

４．ホームページの運営とコンテンツの充実

①禅文化研究所ホームページの運営とコンテンツの充実

本年度もホームページのコンテンツ更新や「ブログ禅」の更新を行なっていく。また、Facebook や Twitter へも更新情報等シェアしている。

②臨黄寺院ネットワークの運用協力

臨済禅を世界に発信する公式サイトである臨黄ネットの情報更新及びコンテンツ制作を行なう。

５．公開講演会等

①公開講演会

企画墨蹟展公開中に記念講演会を開催する。春季は「誠拙周樗」展の会期中に 2 回開催予定。

②教化・運営の実践講座（サンガセミナー）

昨年度に続き、寺院の教化活動や運営などに役立つ実践的なセミナーを有料で年 4～5 回（8～10 講座）開講する（会場は京都）。僧侶・徒弟だけでなく一般も受講可能。今年度も計 5 回 8 講座程度を計画予定。定番で人気のある講座「東林院精進料理講座」・「日々の花講座」を中心に企画する。

６．第１４回東西霊性交流

第 14 回東西霊性交流を本年 9 月、ヨーロッパで実施する予定。日本から 5～6 名を派遣予定。現在、ヨーロッパ側との事務手続き中。

７．広報・普及

研究成果としての刊行物を、各種媒体を通して広報し、直販、寺院売店、書店、美術館などの各ルートを通じて普及促進するほか、メールマガジンの発行、Twitter や Facebook などを利用して、より広範囲に普及するよう努力する。季刊誌については、花園会館や南禅寺会館の客室に常備いただいている。

さらに各地で開催される講演会やセミナー等にも積極的に出向き刊行物の販売を行なう。

Ⅱ．収益・共益等事業

〈1〉ソフト開発・販売等事業

１．宗教法人管理システム「擔雪Ⅱ」の販売

「財務管理」「法務管理」「会費管理」「寄付金管理」の各システムを発売中。宗門を中心に仏教諸宗への販売促進。ＤＭ（ダイレクトメール）やネット上のアドワーズ広告等を中心に販売を行なう。最新の Windows10 にも対応済み。「擔雪Ⅲ」へのバージョンアップの開発開始。平成 32 年度中に販売予定。

２．オーダー型宗務所管理システムの構築

①東福寺派管理システムの構築

構築済みシステムの運用をサポートする。

②南禅寺派管理システムの機能追加

構築済みシステムの運用をサポートする。

③建長寺派管理システムの機能追加と運用サポート

構築済みシステムの運用をサポートする。

④曹洞宗宗務所管理システムの運用サポート

構築済みシステムの運用をサポートする。

⑤天龍寺派管理システムの運用サポート

構築済みシステムの運用をサポートする。

⑥妙心寺派布教師会管理システムの運用サポート

構築済みシステムの運用をサポートする。

⑦佛通寺派管理システムの運用サポート

構築済みシステムの運用をサポートする。

⑧真言宗管理システムの運用サポート

神奈川宗務支所が導入したシステムの運用をサポートする。

⑨青蓮院管理システムの保守サービス

既存ソフトウェアの保守及び機能追加と改変作業を行なう。

⑩永保寺墓地管理システムの構築

構築済みシステムの運用をサポートする。

⑪藏春寺霊園管理システムの構築

構築済みシステムの運用をサポートする。

⑫妙心寺派　白隠さんの会　会員管理システムの運用サポート

構築済みシステムの運用をサポートする。

現在、臨黄 15 派のうち 6 本山は研究所のシステム（「擔雪Ⅱ」含む）を利用中。

３．宝物管理システムの販売

公益事業の一般寺院什物データベースと関連して、一般寺院が個々に所蔵される宝物什物（軸物・仏像など）をデジタルアーカイブとしてデータベース管理できるソフトウェア「禅の至宝」を引き続き寺院に向けて販売する。デジタルアーカイブス調査を終えた寺院には、構築したデータベース（無償）と共にご購入いただいている。

４．出版物頒布

他社から委託を受けた出版物をホームページやＤＭなどで案内し、頒布する。

〈2〉共益事業

１．寺院その他委託刊行

①	『大用国師墨蹟集』	大本山円覚寺	（平成 31 年 4 月）
②	『空花室日記』（大徳寺黄梅院）複数冊で 1 冊ずつ刊行（31 年度中に 1 冊刊行予定）		
③	『糸原圓應老師語録』	平林寺	（平成 32 年 6 月）
④	『正受老人遠諱記念図録』	妙心寺聖澤派	（平成 32 年 10 月 6 日刊行）
⑤	『正受老人崇行録』提唱本	妙心寺聖澤派	（平成 32 年 4 月）
⑥	『恵林寺所蔵頂相集』	恵林寺	発刊未定
⑦	『梅天禅師法語』	妙心寺派正法寺	（平成 34 年刊行準備中）
⑧	『伊達家の歴史』	満勝寺（仙台）	（平成 34 年刊行準備中）

２．引導法語データベースの公開

妙心寺派教学部と共同で制作した引導法語データベースについて公開中。

３．臨黄合議所事務局

臨済宗・黄檗宗各本山の合議機関である臨黄合議所からの事務委託を行なう。

① 「臨黄会報」の発行（年 2 回）。
② 臨黄互助会の促進。
③ 臨黄教化研究会の実施。
④ 会議等の事務処理。

５．日中臨黄友好交流協会

中国仏教界との交流事業の推進。